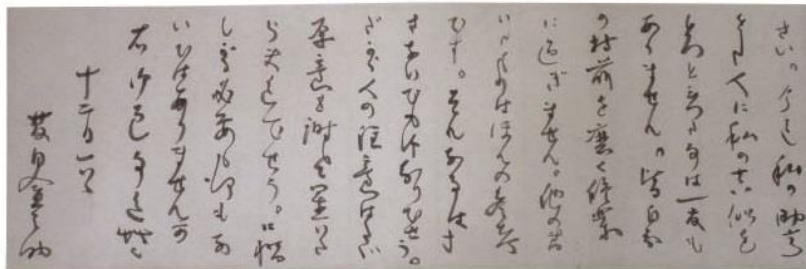


「人と人を結びつける」ことは

寄贈・寄託資料から



夏目漱石 長谷川達子あて書簡（部分）（寄託資料）

明治43年(1910)12月6日

作家を志望する女性に宛てた手紙。懸賞小説の落選を伝え、自分の才能を磨くことを大切にしよう論している。



夏目漱石『金剛草』

大正4年(1915)至誠堂書店

大正名著文庫第22編として、「私の個人主義」など講演、評論、小品など32編を掲載。



至誠堂書店『金剛草』印税帖

大正4年(1915)11月から大正11年(1922)11月までの印刷部数と印税の金額などが記されている。

「人と人を結びつける」という表現は、夏目漱石が「ケーベル先生の告別」の中に書いた言葉です。大正三年(一九一四)八月、漱石が大学院時代に講義を受けたケーベルが帰国することになった際、「東京朝日新聞」に「ケーベル先生の告別」を掲載しました。その中で、「先生に一番大事なものは、人と人を結びつける愛と情だけである」と述べています。

今回展示する資料の中でも、漱石の書簡は、学生時代の友人や、面識のない学生、作家を志望する女性など、多様な人たちに宛てたものですが、どれも「人と人を結びつける」ことばにあらわれています。また、一枚の写真や絵画にも、人と人とのつながりがうかがえます。

本展では、近年新宿区に寄贈・寄託された資料を中心に、原稿・書簡・絵画・書籍をはじめ、それらの背景を示す資料もあわせてご紹介します。

主な展示資料

- ・夏目漱石原稿「ケーベル先生の告別」(大正3年8月)
- ・夏目漱石原稿「ケーベル先生」(写真)
- ・『思想』ケーベル先生追悼號(大正12年8月)
- ・夏目金之助 立花銃三郎あて書簡(明治26年7月12日など計6点)
- ・チャーレス・ダーキン著／立花銃三郎訳『生物始源 一名種源論』(明治29年)
- ・『立花文學士遺稿』(明治36年)
- ・夏目金之助 荒木秀一あて書簡(明治43年12月10日)(寄託資料)
- ・荒木秀一『近代劇物語』第二巻(大正3年)
- ・夏目金之助 松根東洋城あて書簡(明治44年3月17日)
- ・夏目漱石 風景墨画幅(松根東洋城旧蔵品)
- ・夏目漱石『色鳥』(大正4年)
- ・新潮社 印税控帖
- ・夏目漱石原稿「私の個人主義」(複製) など

ギャラリートーク

担当学芸員による展示解説を行います。

〔日時〕12月8日・22日、1月12日・26日、2月9日・23日の各土曜日、14:00から20分程度

〔会場〕漱石山房記念館2階展示室

〔申込〕不要(観覧券が必要です)

2月9日朗読会

2月9日は漱石の誕生日(新暦)です。漱石作品の朗読会を開催します。

〔日時〕2月9日(土) 13:00-15:30

〔会場〕漱石山房記念館地下1階講座室

〔朗読〕ふみのしおり・神楽坂朗読の会・近代文学をたずねて～沙羅の木～

〔申込〕不要(先着70名)

※朗読作品等、詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。

文学講座「江戸・明治・大正一漱石と時代」(全2回)

2019年1月30日(水) 14:00-16:00

テーマ: 漱石作品にみる「東京山の手」の変貌

講師: 中島国彦(早稲田大学名誉教授・日本近代文学館専務理事)

2019年2月13日(水) 14:00-16:00

テーマ: 建築家になりたかった、漱石

講師: 中川 武(早稲田大学名誉教授・博物館明治村館長)

〔会場〕漱石山房記念館地下1階講座室

〔定員〕50名(申込多数の場合は抽選)

〔料金〕1,000円(全2回)

〔申込〕往復はがきに講座名・住所・電話番号・友の会会員は会員番号を明記の上、漱石山房記念館へ。1通で1名のみ。当館ウェブサイトからもお申込みいただけます。

2019年1月15日必着。

交通のご案内



【電車】

東京メトロ東西線「早稲田駅」1番出口より徒歩10分

都営地下鉄大江戸線「牛込柳町駅」東口より徒歩15分

【バス】

都営バス(白61)「牛込保健センター前」より徒歩2分

※駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

新宿区立 漱石山房記念館

Natsume Soseki Memorial Museum

〒162-0043 東京都新宿区早稲田南町7

TEL.03(3205)0209 <http://soseki-museum.jp>

